

腫瘍新生血管に特異的なバイオマーカー

元学長 河野公俊、呼吸病態学 和泉弘人 他

利用分野

癌の治療法として、化学療法、ホルモン療法、標的治療および免疫療法の4つのタイプがあり、今後、市場シェアが最大となるのは、ソラフェニブやスニチニブに代表される分子標的治療薬であるといわれている。

シーズ

DNAに特異的に結合する特定の蛋白質が血管内皮細胞に発現していることを見出した。特に、腫瘍の増殖に伴う新生血管に強く発現することを見出した。さらに、YB-1の発現を効果的に抑制する核酸を特定した。この転写因子を標的にすることは、抗腫瘍新生血管薬の治療効果のモニタリングや、腫瘍細胞と腫瘍血管血管内皮細胞の双方を同時に増殖抑制することが可能な抗腫瘍薬の開発において極めて有用である。



ニーズ

CD31やCD34等は血管内皮マーカーであるが、腫瘍血管特異的ではないため、腫瘍組織における新生血管をよりの確に検出することが従来困難であった。癌治療の効果の決め手となる薬物送達システムを考慮せずに、腫瘍増殖を押さえることができる治療ターゲットが求められている。

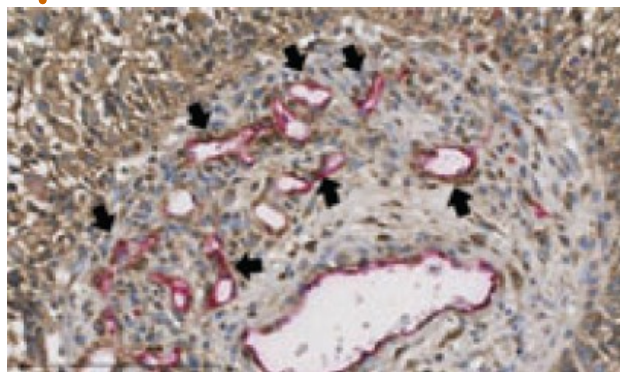
連携分野

癌転移・浸潤関連分子(YB-1)を標的とした核酸医薬開発のための共同研究の実施。



知財保護

特許第5697010号



がん細胞増殖と血管新生を標的とした治療薬の開発につなげる



本学マスコットキャラクター
ラマティー



産業医科大学 産学連携・知的財産本部
〒807-8555
福岡県北九州市八幡西区医生ヶ丘1番1号

問い合わせ先: 研究支援課
TEL: 093 (280) 0532
FAX: 093 (691) 7518
E-mail: chizai@mbox.pub.uoeh-u.ac.jp